

販売期限管理に特化し導入しやすい 食品ロス削減アプリ「Semafor」

販売期限が近づいた商品を知らせ、廃棄、ロス削減を支援するアプリ「Semafor (セマフォー)」の提供に注力しているスコープ。シンプルなシステムで、食品ロス削減だけでなく、日付チェック作業の削減、クレーム削減も図れると評判が高い。30日間無料トライアルを実施している。

最大40%の廃棄物を削減

10月は「食品ロス削減月間」。小売や食品メーカーの広告・販促などを手掛けるスコープでは、最大3段階にわたって販売期限を告知する、食品ロス削減アプリ「セマフォー」の販売をスタート。スウェーデンのフードテック企業が開発、すでに10カ国2,000店舗以上で導入が進んでいる。

スウェーデンの店舗では、廃棄物は最大40%削減、期限チェックや廃棄のための作業時間は最大50%節約、期限切れ商品に関するクレームは97%削減と、確かな実績を出して

いるという。「このアプリは基幹システムと連携せず単独で稼働するため、既存システムは改修せずに導入いただけます。スマートフォンやタブレットでも操作が可能です」(SDGs推進室 小川訓昌室長)

誰でも感覚的に理解できるよう、シンプルで分かりやすいインターフェースを採用。販売期限の迫った商品を、緑・黄・赤の3色で段階的にシグナルを発信。例えば、緑は店頭在庫の状況を確認する、黄は値引きシールを貼り棚に戻す、赤は棚から撤収してエコバーゲンコーナーへ移すなど、取るアクションは各チェーン・各

店舗で決めておく。これにより、対応に必要な商品だけをチェックすればよく、作業の削減にもつなげられる。また、スタッフの見逃しにより、期限が切れた商品

「セマフォー」は、販売期限が迫った商品を知らせる機能に特化したシンプルなアプリ。スウェーデンのWhywaste社が開発



なく、期限が長めで回転のゆるやかな商品カテゴリーに対するの運用が効果的なようだ。

アプリの利用料は店舗数に応じて異なるが、1店舗あたり月額1~4万円を予定。オプションで、何度も値引きされている商品や、在庫切れにな

が売場に残ってしまうことも防ぎやすくなるという。

30日間無料トライアルを実施

導入にはまず、管理を行いたい部門・カテゴリーの商品名やメーカー名、販売期限管理のルールなどの情報を登録する。インポートも可能だ。そして、店舗では、システム内に管理したい棚の情報を設定した後、商品のバーコードを読み取り、店頭在庫の中で最も早い賞味期限を登録する。入荷・検品の際に登録する必要は

りやすい商品のリスト化にも対応しており、品揃えの見直しや発注計画に役立てられる。

「今後は、Bluetoothを使ってその場で値引きシールを発行したり、生活者に販売期限が近い商品を案内するアプリの開発も予定しています。ご興味を持っていただけた企業様には、まずは30日間無料トライアルのお申し込みをオススメしています。10月は食品ロス削減月間ですので、この機会に、企業のSDGsへの取り組みや社会貢献活動の促進に、ぜひお役立てください」